

実際の入試問題を使って、この講座の効果をご説明します

社会科学 No.6

人工知能と医療の未来 —— 診断AI・ロボット手術・医師の役割はどう変わるか

★ 清光学院の講師は、医療情報学・AIと医療を専門とする大学教員です。診断AIの臨床評価・医療データの倫理的利用を研究者として深く知っており、その経験がこの講座の根拠になっています。

1. この講座が有効な入試問題のタイプ

① AIと医療を問う小論文

「人工知能は医師を代替できるか」「AIが医療を変える可能性と課題を論じよ」という小論文は医学部で頻出である。診断AIの実態・限界を知っている受験生は、技術論と倫理論を組み合わせた深い論述ができる。

② 医師の役割・将来像を問う問題

「AIが発展しても医師が必要な理由は何か」という問いは医学部面接の定番である。AIの得意と不得意を具体的に知っている受験生は、医師の本質的価値を論理的に語る。

③ 「医療データ・プライバシー」型の問い

「医療AIの開発に患者データを使うことの倫理的問題は何か」という問いに、データ倫理・プライバシー・アルゴリズムバイアスの知識で答えられる受験生は、試験官に深い倫理的思考があると判断される。

2. 具体的な大学・学部との対応

大学・学部	出題の傾向	本講座との対応
医学部全般（小論文）	AIと医師の役割を論じる問題	診断AIの実態と限界が論述に具体性を与える
医学部推薦・総合型選抜（面接）	「AIが発展しても医師が必要な理由」型の問い	AI医療の知識が医師の本質的価値の論述を可能にする
理工系・情報系学部	医療AIの技術的・倫理的課題	医療文脈がAI倫理の実践的意味を示す
大学院・医学研究科	医療情報学・デジタルヘルスの研究方法	AIと医療の最前線が研究課題の設定に直結する

3. なぜ差がつくのか・受講後に期待できる変化

「AIが発展しても医師の温かみが必要です」という答えは採点者には「技術的理解がない」と映る。授業の詳細な内容はここでは述べないが、受講後には（1）診断AIの実態と限界を技術的・倫理的に説明できる、（2）AIと医師の役割分担を論理的に論じられる、（3）面接でAI医療の可能性と課題を倫理的根拠で語る、という変化が起きる。

清光学院の講師陣は、関連する入試問題で「表層的な答案」と「深い理解を示す答案」の評価の差がいかに大きいかを採点者として知っている。その実感が、この講座の根拠である。